

令和5年度第1回久留米市自殺対策計画推進委員会 議事録

日 時	令和5年4月26日（水） 17:00～18:20
会 場	久留米市役所 301会議室
出席者	久留米医師会、聖マリア病院、くるめ地域支援センター、久留米労働基準監督署、福岡県弁護士会筑後部会、久留米市民生委員児童委員協議会、にじいるCAP、九州モモの会（自死遺族の会）、久留米警察署、久留米広域消防本部、公募委員3名
欠席者	久留米代大学、久留米商工会議所、福岡県弁護士会筑後部会、グリーンコープ
配布資料	1. 久留米市自殺対策計画最終評価報告書（案）
議 長	<p>協議事項（1）久留米市自殺対策計画最終評価報告書（案）について</p> <p>事務局から最終報告書の説明があった。令和6年から10年の自殺対策計画策定に向けて重要な最終評価となる。活発な意見をいただきたい。第5章の総括から進めていきたい。</p> <p>新型コロナの流行が、自殺の現状に大きな影響を及ぼしたと感じている。まず男性の経済的な困窮について、相談対応されている労働基準監督署からご意見をいただきたい。</p>
委 員	労働安全衛生法の中でストレスチェックの実施を義務付けている。現行法ではチェックの実施義務があるのは、労働者50人以上の事業所となっているが、今後、対象が拡大される可能性は高い。また現在、労働災害減少に向けた14次実施計画を策定している（5年毎改定）。その計画の一つに、50人未満の事業所でもストレスチェックを実施することが記載されており、労働基準監督署としても、公的な実施義務のない事業所にも、個別指導や集団指導を行っていくことを検討していく。
議 長	50人未満の中小企業でも、男性の勤務に起因する問題は起きていると思う。50人未満の中小企業においても、ストレスチェックを広めていただきたい。
委 員	労働局と労働基準監督署と協働でメンタルヘルスセミナーの実施予定もある。労働局のホームページ等で周知していく。
議 長	<p>女性の自殺とコロナの関連について。</p> <p>女性の自殺者数が非常に増えている。家庭の問題も増えているのではないかと思う。本日は女性の委員の参加もあるが、ここに記載されている課題で十分か？女性職員も多い医療機関の委員からご意見をいただきたい。</p>
委 員	病院内でも、ストレスチェックを実施し対応している。休職に至る職員は年々増加傾向にあるので、復職プログラム等で復帰を支援している。家庭問題としては、子育て世代のスタッフが多く、コロナ禍、休校で勤務が出来ないスタッフも多かった。

議 長	<p>男性の「原因・動機別自殺」を見ると、勤務問題と経済・生活問題が多い。一方女性では、家庭問題が多くなるのは、男性が家庭の中にいることがストレスになったとも読める。DVの問題や、元々緊張感のあった家庭の中に更なる抑圧がかかったとも想定される。男女平等などの相談が増えているのではないかと考えている。男性が家にいることで、軋轢がかかるという点について、公募委員からご意見をいただきたい。</p>
委 員	<p>「男性は外で働き、女性は家を守る」という考えから社会の政策が変わり、男性と女性で軋轢が生じているのではないかと考える。今回のコロナ禍において、女性が家庭の中で孤立したのではないかと考える。</p>
議 長	<p>夫婦で同居していても孤立している状況もあったのではないかと考える。女性の自殺対策の一つの解決の手がかりになると思う。</p>
委 員	<p>24ページ2 これからの自殺対策の推進にあたっての課題 (2) 市民を孤独にさせない地域づくりについて。</p> <p>健康状態というのは、身体的なものや精神的なものがある。ここで言いたいのは孤立だと感じる。「市民を孤独にさせない」と言っているが、孤独と孤立を併記すべきではないか。おそらくここでは孤立のことを言っているのではないか。家の中で家事負担している女性も孤独。市民を孤立させない・孤独にしないことが重要なのではないか。孤立していることと、孤独とを捉え違えてはいけない。久留米は地方都市である。地方の家族構成の中で、家庭内での孤立が生じたのではないかと</p>
事務局	<p>孤独と孤立については、国の「孤独・孤立対策の重点計画」で示されている「孤独＝主観的概念、ひとりぼっちと感じる精神的な状態」「孤立＝客観的概念、社会とのつながりがない/少ない状態」の考え方に基づいて作成している。その計画において、「孤独・孤立双方を一体として捉え、当事者や家族等の状況等に応じて多様なアプローチや手法により対応することが求められる」と示されていることから、27ページ 総括に、「孤独・孤立」の記載を追記する。</p>
議 長	<p>新型コロナ流行という、大きな社会情勢の変化があった。こういった想定外のことにも対応できる計画づくりが理想。生活困窮者についても、いくつか取り組みがあった。コロナで生きがいを持ってなくなってしまった高齢者も増えていると考えられる。ご意見をいただきたい。</p>
委 員	<p>新型コロナ流行により、高齢者サロンなどの地域活動が休止・解散となり、高齢者の外出の機会が減ったと感じている。包括支援センターでも出前講座の依頼が途絶えていたが、今年度から少しずつ依頼が来ている。校区の文化祭等も復活してきており、地域も徐々に活動を再開してきているが、外に出ることを億劫に感じる高齢者もいる。外に出る機会の重要性について、包括支援センターとしても啓発を行っていきたい。</p>

議 長	アフターコロナの中、高齢者の社会復帰のプロセスを描き、計画に盛り込む必要があると思う。
議 長	8050問題について。50歳代の引きこもりの子どもの面倒を、高齢の親が看ることができなくなる問題が出てきていると思う。この件についてご意見をいただきたい。
委 員	<p>ひきこもりについては、民生委員の定例会でも話題になっている。個人的にもひきこもりのきょうだいを抱える知人がいるが、高齢の親はそのことを隠したい世代。「周囲の人に知られたくない」という思いがあり、自分達を苦しめている。親にとっては我が子だが、きょうだいにとってはそうではない。</p> <p>8050問題と言われるが、将来的にその兄弟が苦しむことになることを考えると、早く見つけて支援に入り、回復のプログラムを構築してもらいたい。</p>
議 長	<p>19ページの市民への普及啓発に記載されている、「1）市民一人ひとりの気づきと見守りを促す」に繋がる意見だと思う。これは、地域での気づきを促すことにつながり、前向きな取組みになると思う。</p> <p>弁護士相談では、財産の問題や兄弟間の問題について、どういった相談があるか、ご意見をいただきたい。</p>
委 員	<p>コロナ以前は、PSWと弁護士会の意見交換会を実施していた。40人くらいの参加があったが、弁護士それぞれの意識の差もあるため、弁護士会内の啓発も必要だと感じている。</p> <p>福岡県弁護士会には「自死問題対策委員会」があるが、これは他県の弁護士会にはない。この地域の人口スケールは、こうした会の設置にちょうど良い。</p> <p>自殺対策に関する講演や出前授業などを行っているが、こうした自殺対策で「だれかを助けられたのか」は、数字には見えてこない。しかし、「何かしらつながっているのではないか」「だれかのためになっているのでは」と思えば、やる価値があるのではないかということを、後輩たちに伝えている。コロナで病院から送られてくるFAXが減っていたが、また徐々に増えてきているので、地道にやっていきたい。行政には、自殺対策にはいろんな手段があることを周知してもらいたいと思う。</p>
議 長	<p>今の意見については、17ページの地域・庁内におけるネットワーク強化に該当する。弁護士会においても8050問題などの理解を深めたり、DV被害や金銭問題と併せて家族関係にも注意を払ってもらいながら、コロナからの生活の立て直しなどを図ることが重要であると考えます。</p>
議 長	<p>目標・指標の達成状況のうち、13ページの「子ども若者」の評価では、H28年の自殺死亡率が1.7だったのが、この5年で5.8となっており、これは非常に大きな問題だと思う。この点について、現状や付け加えたい施策についてご意見をいただきたい。</p>

<p>委員</p>	<p>子ども若者に関しては、新型コロナ流行前から問題となっており、令和2年に文部科学省と厚生労働省から連名通知という形で、各教育委員会に通達されていた。子どもの自殺者数は、令和2年度に急増し、特に高校生男子の自殺者が非常に多くなっている。</p> <p>保健所との取り組みの中で、中学校へ出向き、思春期ならではの心理的な話をすることで、「自分だけ抱えているのではないか」という気持ちを半減させ、SOSを出すことを伝えている。</p> <p>また、学校でできる孤立を防ぐ方法として、学校の先生への研修と中学2年生へのプログラムを実施している。先生方と話していると、「課題を抱えていて打ち明けられない子ども」に対する、先生がもっているイメージと実際にリスクを抱えている子どもとのギャップがあるように感じる。</p> <p>自殺する子どもは、実際にはギリギリまで我慢して行動に起こしているため、「非行」や「反発している」といった問題が無い生徒が多い。そういったイメージのギャップについて先生に話していくことで、手立てを感じてもらっていると思う。</p> <p>また自殺の原因について「家庭」が原因だと感じている先生も多く、「家庭のことにはなかなか口を出せない」と言われることがある。しかし、自殺はいくつもの問題が重なって起こるため、子どもに学校の中でのつながりを感じ、孤立を防ぐことにより、最悪の事態を防ぐことや、先生方が無力感から解放される場面をみえてきた。アンケートの中では「明日自殺を考えていた」というコメントや、「自分だけが思っていた訳ではなかったんだ」という感想もある。子ども達から相談された時の対応について、先生方から相談を受けるが、「つつい頑張らせてしまう」「気にするな」といった声かけで悪化させてしまうことがある。また、相談された内容から話題を変えてしまうことで、「こんな話をしてはいけなかったんだ」と子ども達に思わせてしまうことがある。「ただ聞いてもらうだけでいい」ということが、効果として上がってきたと思っていたが、この数値を見ると、まだまだ足りないと感じている。今後もロールプレイ等を通して先生方への啓発を行っていききたい。</p> <p>併せて、子ども達が支援先を知ることも重要なことだと思う。SOSの授業の際には、保健所に来て貰い、顔のみえる関係をつくることで、安堵感・世の中のつながりを感じてもらっているのではないかと思う。</p> <p>家庭子ども相談課が行っている、小学4年生のプログラムと中学2年生で行うプログラムが重なることで、より効果が上がる取組みになるのではないかと考えている。</p>
<p>議長</p>	<p>公的機関との繋がりを確立することが重要だと思うが、そのことについて、ご意見をいただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>自分の子どもが高校入学後、不登校となった。不登校になる子は繊細な子が多い。自殺をしそうで不安だった。死なせたくないから「学校に行かない」という切り札を使っていいことを伝えている。親子の会話は良くできている。こころの弱い繊細な子ども達が悩んでいることをキャッチできる家族や学校であればよいと思う。</p>

議 長	不登校というキーワードが出てきた。不登校も切り口として考えてもよいのではないか。
委 員	不登校については「繊細」というよりも、どちらかと言うと、「期待に応えたい」とギリギリまで我慢しているのではないか。だから表に出さない。子ども若者の自殺対策の難しい所だと思う。
議 長	医師会で自殺未遂者について、救急外来と連携している。この制度は浸透しているか。
委 員	実際に浸透しているかどうかについては、不明。
議 長	自殺未遂者は自殺の既遂者になりやすい。救急外来では軽症者はすぐ帰してしまうことがある。未遂者への支援について、医療機関への啓発の協力をお願いしたい。
議 長	自死遺族等についてはどう考えるか。ご意見をいただきたい。
委 員	子どもを亡くされた方の参加が多い。その中に、高校生、大学生のご家族を亡くした方が参加されている。新型コロナ流行で、ZOOM や SNS による相談が増えた。電話が苦手だけど SNS ならできるという若者も多い。会を久々に開催した。法律問題について聞きたい家族が多い。最近自死で身内を亡くされた方は、緊急な支援が必要。連携が重要だと思う。
議 長	法律問題については幅も広いため、弁護士会に相談してほしい。
議 長	自殺対策の推進にあたり、「自殺に対する正しい認識」について意見はあるか。
委 員	みなさんが言われているように孤立・孤独の問題があるように思う。誰か話を聞ける人、自殺の正しい認識をもつ人が増えることが必要だと思う。深夜1～2時に「死にたい」という電話や来所がある。少し話を聞くと落ち着く人が多い。誰か話を聞いてくれる人が本当に重要。一時的ではあるが、日々出来ることをしている。
議 長	こういった対応がとても大事で、久留米以外の署でも広げていくことが必要。
委 員	自殺する人は深く悩んでそういう結論に至っていると思う。タイミングをずらせば救えたかもしれない人もいると思う。自殺する人が多い月や時間など統計的に出ていたら知りたい。
委 員	自殺が多い時期は5月（令和4年）。突発的な行動を伴う印象はある。搬送歴をみると精神科のかかりつけがない方が多い。そういった方が既遂する場合が多い。時間帯は様々。搬送に駆け付けても、既に亡くなられている方も多い。時間帯は警

	<p>察が把握しているのではないかと思う。</p> <p>昨年度から消防では、応急手当の講習を久留米市内の全小学校で行っている。学校教育課と久留米大学（循環器）と共に行っている。今年度については中学校へも拡大予定。その講習の中でいのちの大切さについても伝えている。高校とは連携が難しく課題と感じている。</p>
委員	<p>いのちの大切さを強調することによって、かえってリスクを拡大させることもある。「いのちは大切だと、思いたいのに思えない」と言う気持ちに寄り添って欲しいと思う。</p>
議長	<p>評価でDの評価項目だけを取り上げていくのではなく、アフターコロナなど、時代に合った施策を盛り込んでもらうのが有効かと思う。</p>
委員	<p>ゲートキーパーとして声掛け活動を行っている。ラジオ等で聴いた事などを活かしてアドバイスしている。自分を信頼して思ったことを話してくれる市民も多く、幸せを感じている。一人でも自殺者を減らしたく日々努力し、会話している。</p>
議長	<p>ゲートキーパーは大変重要な役割である。14ページ「自殺対策を支える人材の育成」の項目で、ゲートキーパーの認知度が下がっている。再び推進していくということを盛り込んで欲しい。</p>
委員	<p>他の委員からも意見があったが、久留米市ならではの「医療との連携」など、他の地域ではやっていない取組をやっている。ゲートキーパーの活動についてもそうだが、もっと市民の方に分かってもらいたい、もっとPRして欲しいと思う。</p>
議長	<p>重層的な取り組みをするというところで、自殺対策計画そのものを「広報くるめ」等様々な媒体を活用して伝達していくことは重要。施策を活かしていくために、この最終報告書を伝達してもらいたい。沢山の意見が出た。これが次期自殺対策計画の策定に活かされると思う。「アフターコロナ」、「子どもの対策」等「自殺に対する考え方の醸成」というところも大事だろうと思う。</p> <p>その他、質疑・意見なし</p> <p style="text-align: right;">以上</p>